

美里町立小学校統合準備委員会報告書

令和 6 年 10 月 31 日

美里町立小学校統合準備委員会

目 次

1	はじめに	1
2	統合新校舎の建設について	1
	(1) 統合新校舎について	1
	(2) 必要教室数について	2
	(3) 体育館について	2
	(4) プールについて	2
	(5) 給食室棟について	3
3	先進地視察について	3
	(1) 視察先の概要	3
	(2) 質疑応答	4
	(3) 委員からの意見	4
4	統合新校の開校時期	5
5	会議経過	6

1 はじめに

現在美里町では、少子高齢化が進み、年々児童数は減少している。また、学校施設の老朽化も顕著である。こうした背景を踏まえ令和2年に設置された美里町立小学校適正規模等検討委員会から、次のような答申書が提出された。

- ◎将来は小学校を1校とすることが望ましい。
- ◎学校を1つにする時期については、令和15年頃までが望ましい。
- ◎新たな小学校は、美里中学校付近の町中心部に新設が望ましい。
- ◎小中一貫校として、小学校の教科担任制や中学校の技能科目の充実を図ることが望ましい。
- ◎スクールバスの活用により、通学班の編成や通学路の安全安心の確保が望まれる。

この答申を受け、美里町立小学校統合準備委員会を設置し、将来の美里町を背負って立つ子供たちにとって望ましい学校教育環境とは何かを考え、より良い教育条件・教育環境を整備するため、統合小学校の必要教室数や特別教室、付属施設等の構想について、話し合いや先進地視察等を行い様々な検討を進めてきた。こうした審議・検討をまとめた結果をここに報告する。

2 統合新校舎の建設について

(1) 統合新校舎について

- ◆小中一貫校として、美里中学校敷地内に小学校校舎を新築する。
- ◆小学5年生から6年生の教室は、既存中学校校舎内に設置する。
- ◆小学1年生から4年生の教室は、統合新校舎に設置する。

中学校内の普通教室に余裕があり、それらを有効活用するため、小学5、6年生を既存の中学校校舎に配置し、小学1年生から4年生が学ぶ新校舎を中学校の敷地内に新築する。

小学5、6年生が中学校校舎で学ぶことのメリットとしては、「中一ギャップ」解消の期待があげられる。小学生の内から、先輩である中学生や中学校の先生と同じ校舎で学校生活を過ごすことで、中学校の環境に慣れることができる。ただし、引き続き小学校の学校行事に参加するため、下級生との関わりを通してリーダーシップや責任感といった精神も育むことができると考えられる。

スクールバスの運行については、町が直営するか、委託するかなどの運営形態の検討も必要である。循環バスとしての活用も考えられるが、経費の面や運転手不足の問題もあるので、費用対効果を検討しながら適切な形態を探っていく必要がある。具体的なコースや運行スケジュールは、建物が完成し、教職員や関係者と協議した上で検討する。

(2) 必要教室数について

- ◆統合小学校に必要な普通教室 14 教室のうち最大 6 教室分を中学校校舎に配置し、統合新校舎には小学 1 年生から 4 年生までで最大 10 教室分を設置する。

必要諸教室の検討にあたり、今後の児童生徒数の将来推計を行った結果、令和 15 年度推計では小学校児童数が 439 人、中学校生徒数が 183 人となった。

児童生徒数の将来推計をもとに、普通教室の数を 1 学級当たりの児童生徒数を埼玉県の学級編制特例に基づき算出すると、小学校では 14 教室、中学校では 6 教室となった。また、特別支援教室は、小学校では 3 教室、中学校では 3 教室となった。

特別教室は、統合校舎内に各教室をそれぞれ 1 教室ずつ設ければ教室不足はないとの試算結果が出ているが、中学校の教室と共用できるものがあると考えられる。机や椅子の高さや授業で使う道具の違い等の課題があるため、教職員と協議しながら慎重に検討していく。

(3) 体育館について

- ◆既存の中学校体育館は解体する。
- ◆小学校体育館と中学校体育館を計 2 棟新設する。

既存の中学校体育館は老朽化が進行し、建替え時期を迎えている。また、小学校との共有化を考えると、現在の規模では不足が生じる。

そのため、既存の体育館を解体し、大きさの異なる 2 棟の体育館を新設する。小中学校どちらの授業でも使用できるような運用を考えている。

また、昨今の猛暑や避難所としての活用を想定し、どちらの体育館も空調設備を設置することが望ましい。

ステージ等の式典や学校行事に係る設備は、一方の体育館に設置すればよいかなど、教職員の意見を聞きながら検討していく。

(4) プールについて

- ◆既存の中学校プールは解体する。
- ◆小学校のプールは外部委託も視野に検討する。

既存の中学校プールは老朽化が著しく、解体撤去が必要な状況にある。解体後は、プールを新設するのではなく、外部委託という選択肢もある。他市町村においても、民営のプールを利用して授業を行っている事例が増えてきている。

小学校の学習指導要領では、水泳運動の授業は必修とされているため、どのような形態で授業を行うのがよいか、維持費等の費用面も踏まえ検討していく。

(5) 給食室棟について

- ◆既存の中学校給食室棟は解体する。
- ◆統合後の児童生徒・教職員分の給食調理提供が可能な給食室棟を新設する。

既存の中学校給食室は、現在300人前後の給食を提供しているが、統合後は児童生徒と教職員を含めると、700～800人程度の給食調理提供が必要となる。既存の給食室棟は構造上増築が不可能のため、既存の給食室棟は解体し新設する。

中学校では現在、各階に配膳室を設け、給食調理員が給食室から配膳室までエレベーターで移動し、食缶等をワゴンに乗せて配置している。統合新校舎でも同様に、ワゴンを調理員が運び、エレベーターで各階に配置してもらう必要がある。このため、統合新校舎にも配膳室を設置する。

3 先進地視察について

美里町が検討している統合新校と同規模で、新築の木造校舎である高崎市立箕輪小学校への視察を行った。

(1) 視察先の概要

- 視察実施日 令和6年8月19日(月)
- 視 察 校 高崎市立箕輪小学校
- 見 童 数 452名(R6.4.8時点)
- 学 校 給 食 自校式給食
- 建 設 工 期 第1期工事(工事箇所:普通教室)
平成29年12月～平成30年12月
第2期工事(工事箇所:特別教室、職員室等)
令和元年9月～令和2年12月
- 構 造 木造2階建(一部RC造)
【使用した木材のうち約7割に市産材を使用】
- 仕 上 げ 屋根:ガルバリウム鋼板葺き
外壁:杉板張り、漆喰調塗り
- 延 床 面 積 5,999.03㎡
(第1期:3,197.60㎡、第2期:2,801.43㎡)

(2) 質疑応答

視察先にて、学校長及び高崎市教育委員会施設担当係長に、委員からの質問にお答えいただいた。

Q: 木造校舎について子どもたちや地域住民の反応はどうか。

A: 木のぬくもりや、開放的な空間づくりがされており、温かみを感じられる等の意見をいただいている。

Q: 昇降口を2階と1階に設けた理由はあるか。

A: 出入りをスムーズにしたものと思われるが、詳細な意図は確認していない。

Q: 空き教室の利用用途があれば教えてほしい。

A: 市営の学童がスペース不足のため、午後4時30分までは中学年(3・4年生)の学童として利用させている。

Q: 学童の迎えて保護者が来る際は、学校内に入り出すのか。

A: 出入りさせている。学校の鍵閉めの都合上、迎えに来る際は4時30分まででお願いしている。4時30分以降は、子供たちを市営の学童へ移動させている。

Q: 廊下や床などはどういったメンテナンスを実施しているか。

A: 無垢材を使用しているため、雑巾の水拭きはさせず、乾拭きのみ実施している。市の予算で業者清掃を入れているが、ワックスは使用せず、専用の薬剤を使用している。建築してから3年が経つが、木造校舎のメンテナンスの課題などはこれから表面化してくると予想している。

Q: 校舎新築にあたって活用した国庫補助制度を教えてください。

A: 学校施設環境改善交付金(既存施設面積の建替えに伴う部分)
公立学校施設整備費国庫負担金(既存施設面積から増加する部分)

Q: 木造校舎ならではの維持管理上のメリット・デメリットがあれば教えてください。

A: 【メリット】部分的な改修が、非木造部より容易に低費用でできる。

【デメリット】風雨の影響や水回り周辺は劣化しやすく、改修のサイクルが早い。

改修時期を先送りにすることで、劣化・損傷の範囲が拡大し、大規模な改修が必要となってしまうケースがある。

(3) 委員からの意見

○教室・職員室

- ・木材をふんだんに使って温もりのある教室であった。
- ・床は傷つきやすいが、机と椅子の脚に床保護材を付けると管理が楽になるのでは。
- ・教室の収納が多すぎて空間が狭く感じるため、収納スペースの見直しが必要。

- ・2階に職員室があるのは防犯上問題があるのではないか。
- ・職員室は狭くデッドスペースが多いように思えた。
- ・多目的トイレや相談室がよい場所に配置されていた。

○階段・廊下

- ・廊下は広いが階段は狭く、中学校並みに広さを確保した方がよいと感じた。
- ・クロス張りは汚れが目立っていた。ある程度の高さまで木材で覆う方がよい。
- ・廊下や踊り場の広さや天井の高さ、1枚ガラスの窓などが心にゆとりを与える
- ・階段の多さが懸念。ハンディキャップを持つ人々や高齢者への配慮が求められる。

○建物構造・材質

- ・木造校舎は香りもよく、木の温もりを感じられたが、無垢材は、傷や汚れが目立った。
- ・耐力壁のため閉鎖的な教室構造となっており、鉄筋コンクリートや鉄骨造を取り入れ、より開放的な空間にした方がよい。
- ・建物の構造は耐用年数や建築費、メンテナンス費を考慮し、総合的な判断が必要。

○安全性・衛生面

- ・児童生徒の安全性や衛生管理が懸念される。清掃方法や嘔吐があった際の消毒方法についての対策が必要。

4 統合新校の開校時期

今後のスケジュール(予定)

時 期	業 務 内 容
令和7年度 }	1. 発注方法の調査、検討 2. 建設検討委員会(仮称)の設置 3. 業者選定方法の検討 4. 実施設計書の作成
令和10年度	5. 統合準備委員会(仮称)の設置(カリキュラム等の検討) 6. 新校舎の建設、外構工事

上記スケジュールを踏まえ、統合新校の開校時期は、令和11年4月1日が望ましい。

5 會議經過

No.	日 時 開始時間	開催場所	内 容
1	令和6年 5月30日(木) 14:30~	美里町役場	委嘱、審議
2	7月 4日(木) 14:30~	美里町役場	審議
3	8月19日(月) 13:00~	高崎市立 箕輪小学校	先進地視察
4	10月31日(木) 14:30~	美里町役場	審議